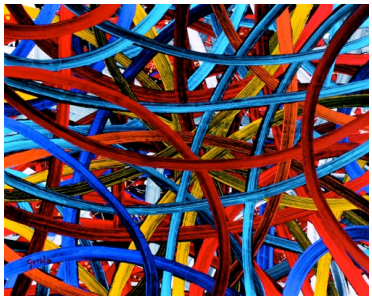
Patrick GEROLA パトリック・ジェロラ

www.gerola.org

現代作家のパトリック・ジェロラは１９５９年ブリュッセル生まれ。
母親が画家であり、詩人であったおかげで生活全てが芸術的な影響を受けて育つ。
ブリュッセル王立美術アカデミーで学ぶ。
１９８１年モーリス・ベジャールの学校の芸術監督を務める振付師ミッシャ・ヴァン・ウックのロンサンブルカンパニーで舞台美術を手掛け活躍。
１９８３年、来日。
それ以後、アーティストとしての独占的かつ情熱な芸術性が認められる。

三つの文化を交差：
ベルギー、イタリア、日本の三つの文化の岐路にあります。
空間演出デザインへのアプローチは、彼がより意識的に装飾の効果を捉えながら、
すべての彼の作品の根源は、常に色、空間、動きの感覚を深めるためのインスピレーションすなわち、ひらめきの三次元がパトリック・ジェロラを導いたのです。日本のアーティストで歌手の彼の妻は、パトリックの成功に大きな支えがあります。
フランドルの巨匠の偉大な崇拝者(彼はブリューゲルの風景を見つけるために彼は青年のころベルギーの田園地帯へ旅をしました)、そして偉大なイタリアのアーティスト(ガラヴァッジョ)、そして日本の習慣、風景等が影響されました。

闇から生まれる光：
輝く色調の秘密は、自製の色素材によるものであるという事実にあります。
彼は絵画の技法「アル　フレスコ」から独自に発案した日本画で伝統的に使用されている天然顔料「岩絵の具」に樹脂を混ぜ合わせます。その色は絵画に貴石の輝きと透明度を与えます。
彼は夜に描くことを好み、夜は、より良い独特な色と光の明るさを制御することができ、かすかな光によって照らされながら、音楽がゆりかごのように響き描きます。



心から発する大胆さと単純さ：
彼の作品は完全な具象画でも特に抽象的でもないが、最大の主観を満たされることです。
心そのもの：
その風景は、自然の中では見ることができない見えない色で照らされ感じた色彩で描きます。色は、彼の作品の発電機です。異なるフォーマットやグラフィックで描かれたマネケンピス(小便小僧)のような作品。彼の色彩感には、カンヴァスに隠れている幻想の世界に存在する神秘が染み込んでいます。

「パトリック・ジェロラの作品を初めて見たときは、初めて知る快感を得た。つまり味わった事のない初体験といえる種類の快感である」

武田厚（美術評論家）

「その絵画作品を特徴づける力強さと気品にあふれる線には、彼が親しんできたバレエの振付との共通点が感じられる」

A.L.J. ヴァン・ド・ヴァル（ゲント大学名誉教授）

Patrick GEROLA パトリック・ジェロラ

1959年 ベルギーブリュッセル生まれ
母親もまた画家という、芸術的な環境の中で幼少期を過ごす
1968年 美術教師アニエス・ドウ・クロムからピーテル・ブリューゲルについて学ぶ(〜1971年)
1977年 ブリュッセル王立アカデミーで学ぶ
1981年 モーリス・ベジャール主宰の「20世紀バレエ団」で振付で芸術監督のミッシャ・ヴァン・ウック率いるムー ドラに参加
また、同監督のバレエ団ロンサンブルの公演で舞台美術を手がける。ブリュッセル、パリ、リール、
ミラノ、フィレンツエなどヨーロッパ各地の巡回公演に加わる
1983年 生活と創作活動の拠点を日本に移す
バレエのワークショップを企画し「20世紀バレエ団」のダンサーであるサンディー・ゴロスティディ、アン
ジェ・ジムスキー、ジル・ロマン、キラ・カルケビッチ、パベル・ボクン、振付家・芸術監督・ダンサーであ
るミッシャ・ヴァン・ウック、ピエール・ドウルロスを日本に招いて講習会を開催する
1985年 つくば万博フランスパビリオンのディスプレイ、装飾
1989年 台湾・ローマ・日本において、PAXO studio 所属のアーティストが絵画・フレスコ画など数々の作品をパブリック
およびプライベートの場にて制作
1994年 「ベルギーフェスティバル'94」を大阪・名古屋にて開催、ベルギー王国フィリップ王子が展覧会をご訪問
1998年 駐日ベルギー王国大使公邸のために絵画作品「満開の鎌倉（1998年）」を制作（ベルギー王国政府 所蔵）、常設
ベルギー王国「キングスデー」（11月15日）の空間デザイン（駐日ベルギー王国大使公邸,1998年〜2001年）
1999年 ベルギーフェスティバル'99in 沼津」を企画・総合プロデュース（会場は4000㎡のドーム)
3日間で2万人の来場者を集めるとともに、生中継でテレビ放映される
2000年 ベルギー王国アストリッド王女、ロレンツォ王子が鎌倉のアトリエをご訪問
「エレナ・ベルテリウス・カンパニー」舞台美術の絵画作品「空の目」(12㎡)をカナリア諸島・テ ネリフェ島にて制作
2003年 ベルギー王国ローラン王子来日の折、鎌倉ご訪問のコーディネイトをする
文化功労者として、ベルギー王国フォーレの名誉市民の称号を受ける
2004年 豪華カタマラン（クルーズ艇）「ドゥース・フランス号」のための絵画12作品を制作
2005年 4月21日から7月3日メルシャン軽井沢美術館10周年記念の展覧会を行う
愛知万博6月14日の「ベルギーの日」ベルギー王国フィリップ王子(現国王)ご来日の際<ジャポニダ>の舞台公演のために
20㎡の作品を制作
2006年 ベルギーのアントワープ州立ダイヤモンド博物館に「祭り」の作品が常設
沼津御用邸での展覧会
国際婦人福祉協会(ILBS)主催「チェリーブラッサム・チャリティー・ボール」のイベント(高円宮妃
列席)での懸賞品としてダイヤモンド入りの作品を手掛ける
2008年 高さ2.20メートルの造形作品（小便小僧）10体を制作
2009年 ブリュッセル国際空港に9㎡の"創作"を設置
2010年 ブリュッセル国際空港高さ2.20メートルの小便小僧 "創作"を常設
駐日ベルギー王国大使館に彫刻に描いた作品"和紙"が再びベルギー王国政府所蔵となる
2011年 ベルギー政府のイナスティが作品所蔵
2014年 ローラン王子殿下が「ブリュッセル・ジャパン・ナイト」の展覧会会場フィリップ・レスクレニエーにお
越しになる機会に恵まれる
2015年 全日空（All Nippon Airway）成田-ブリュッセル間就航記念としてベルギーワロニー・ブリュッセル観光局から
贈呈品の依頼を 受け彫刻作品を描き制作
2016年 ベルギー王国の政府所蔵作品「花束」が駐日ベルギー王国大使館に展示さる
池田20世紀美術館で作品がコレクションされる /池田20世紀美術館での個展
日本・ベルギー友好150周年を記念して六本木ヒルズアリーナで開催されたベルギーの首都ブリュッセルの
「フラワーカーペット」のイベントでブリュッセルを代表し世界に誇れるモニュメントの
小便小僧を2.20メートルの大きさに立像制作し描いた作品を日本ではじめて公表する
2017年 上海アートフェアー2017に参加・展示
2019年 国立新美術館 東京
クリスタル&グラム 東京
アートプラス上海 アートフェア 中国